

# ありがとう

3月3日、岩泉高校田野畑校で行われた最後の卒業式。式を終えた教室では、感謝の気持ちを含め母親に花束を渡す姿。佐々木郁子さんは息子勇人君から花束を手渡され笑顔、そして感激の涙―。(関連記事223)

広報 人と自然が織りなす 心豊かな協働の村

# ただただ

復興へのご支援に心から感謝します

4

2012

No.541



# 被災者と被災地に 寄り添った復旧復興

将来の村を担う若者や後世に  
誇れる村づくりの基礎・基盤を再構築  
強い気概を持って村政運営にあたる

平成24年第3回村議会定例会が3月9日に開会し、上机莞治村長が新年度の施政方針を述べました。村づくりの方向性や新年度の主要事業など、施政方針の内容をお伝えします。



## — 施政方針目次 —

- はじめに ..... 3
- 復興計画の推進 ..... 4
- 予算編成の方針 ..... 4
- 主要施策の展開
  - ①生活再建の推進 ..... 5
  - ②安全な村づくり ..... 5
  - ③産業振興と就労対策 ..... 6
  - ④社会資本と産業基盤の整備 ..... 7
  - ⑤教育の推進 ..... 9
- 結び ..... 10



震災直後からこれまで、物資やボランティアなど多くの支援が寄せられた

### はじめに

平成24年第3回田野畑村議会定例会の開催にあたり、平成24年度当初予算案や村政の重要案件を審議いただくため、村政運営に対する所信の一端を申し上げます。

まずもって、昨年3月の東日本大震災で亡くなられた方々の冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された方へ心からお見舞い申し上げます。来る3月11日には、発災一周年追悼式典を挙げることにしていますので、村民ならびに議員の皆さんの参列をお願い申し上げます。

また、震災直後から今日まで、村民や自治会をはじめ、自衛隊、海上保安庁、警察、ボランティアなど、国内外の多くの個人・団体から支援をいただきながら不明者の捜索や避難所の運営、がれき処理などに取り組んできました。ここに、あらためて衷心より御礼を申し上げます。

震災によって、これまで長年の歳月を掛けて築き上げてきた村民の貴重な財産である住宅や漁船などが流出損壊しました。また、漁港、水産施設、道路、上下水道、観光施設などの村の資産も壊滅的な打撃を受けました。

23年度は被災対応に迫られた1年でしたが、24年度は震災から立ち上がり、未来に向けた活力ある村づくりのスタートを切る事実上の「復興元年」です。

新年度は、2年目となる村総合計画の推進に意を配しながら、復興計画に基づき、逐次、国の復興交付金事業などを活用し、高台移転や津波被災の恐れのない既存集落近傍への住宅再建地を造成するなど、津波によって二度と人命を失わない地域づくりに向けた礎と住宅再建支援や災害公営住宅の建築を促進することによって、被災者の生活再建と地域コミュニティ再構築のための条件整備を着実に推進していく考えです。



## 復興計画の推進

震災以来、被災された方々との話し合いを重ねると共に、4月には専門的な知見を有する方々を委員に委嘱。9月に「東日本大震災田野畑村災害復興計画・復興基本計画」を策定し、議会議決をいただきました。

復興計画は、23年度からスタートした「田野畑村総合計画」基本構想に掲げた『「参加・協働・創造」



今年1月に小学校で開催した復興計画説明会の様子

による村づくり」の基本理念を受け、「未来に向けた復興」をコンセプトに震災前よりもさらに魅力的で新しい村を構築していくための計画です。

復興に向けた取り組みの基本方針は、被災前の行政サービスの質を維持しながら、被災前よりも安全な地域づくりの推進、そして被災者の生活再建と地域振興です。防災の地域づくりについては、高台移転を基本とした安全で安心な居住地の確保、災害に強い社会基盤整備などを推進します。

生活再建については、被災された方々の希望に沿って集団で移転ができる住宅再建用地の確保と災害公営住宅の整備、心身のケア対策や高齢者福祉対策など、腰を落ち着けて生活できる環境整備に取り組みます。

地域振興については、これまで地域経済や就業・雇用の場として本村の活力推進に大きな役割を果たしてきた水産業と観光業が今般の震災によって壊滅的なダメージを受けたことから、この再建に取り組み、震災前にも増した地域活力を回復できるよう積極的な支援

を図っていく考えです。復興計画の推進にあたっては、さまざまな局面で村の皆さんの協力や議会の支援が欠かせないことから、今後とも村民総意の把握に努め、村の皆さんに見える形で着実な復旧復興を図っていく所存です。

## 予算編成の方針

本年1月に国から示された24年度の地方財政計画では、一般財源総額は59兆6241億円、前年度比0.7パーセント増となっており、引き続き前年度を下回らないよう確保されました。

そんな中、地方交付税の総額は17兆4545億円、前年度比0.5パーセントの増となっており、別枠として震災復興特別交付税が6855億円計上されています。

このような地方財政状況を鑑みながら、新年度の予算編成にあたっては、事業効果・効率性、政策の優先度などを総合的に判断し、復興計画および総合計画を実現するための事業を厳選した予算編成を行いました。

以上、申し述べた復興計画の推進および予算編成の方針に加え、特に今般の大震災からの復旧復興への取り組みを中心に、平成24年度の村政運営の主要施策にかかる基本方針について申し述べます。

## 主要施策

### 1

## 生活再建の推進

大震災により、村内では270棟を超える住宅が全壊流出するなど、島越地区、羅賀地区を中心に甚大な被害を受けました。

私はこれまで、他の自治体に先駆けて、被災者の緊急的な生活再建に向けたがれき処理、道路の環境整備、森林整備、漁網・養殖施設、社会教育施設、観光施設などの復旧作業に従事する臨時的雇用を創出してきました。併せて、被災された方々が引き続き村内に安心して定住するためには、移転居住地の確保、住宅再建、災害公営住宅の建設が必要不可欠なことから、被災された方々の意向を尊重しながら住宅移転候補地の絞り込みに全力を挙げてきました。

緊急雇用対策については、本格的な漁業再開や雇用の場ができるまでの間、新年度においても国の制度などを活用しながら可能な限り就労機会の創出に努めていく考えです。

また、住宅移転用地については、候補地の選定と地権者との交渉に基づき、本年1月末に国に対する

## 主要施策

### 2

## 安全な村づくり



防災訓練などのソフト対策も進める

復興交付金事業計画を提出し、新年度早々には本格的に用地造成、道路、上下水道施設、災害公営住宅の建築などのインフラ整備に順次、着工できる見通しです。併せて新年度は、被災者の方々の住宅再建に対する費用の一部を支援するなど、各家庭で将来の生活設計を描くことができるよう生活再建

支援策を強力に推進していく考えです。また、住み慣れた住宅や土地を離れて仮設住宅や借家などにお住まいの方々を中心に、日常の健康管理や心配事の相談に伝えられるよう、継続して支援員配置を行うなど、特に高齢者の方々の「心身のケア」の充実を図ります。

先の大震災によって、村民の多くの人命と貴重な財産を失いました。千年に一度の自然大災害とはいえ、村政を預かる者として痛恨の極みです。東日本沿岸域を襲った大津波被害の教訓として、かけがえのない人命や財産を守るためには、防潮堤や水門などのハード対策のみでは万全でないことが明らかとなりました。

今後、「二度と津波で人命を失わない安全な村づくり」を構築し



ていくための基本的な考え方は、津波襲来エリア内に居住しないこと、防潮堤などの構造物を過信することなく迅速な避難行動を起すことです。

新年度から年次的に、情報の伝達・収集のための通信施設の整備、水門閉鎖の自動制御化、防潮堤などのハード整備に加えて、日頃の防災意識の喚起や防災訓練の重要性の啓発などのソフト対策を加えた多重防災型の村づくりを進めていきます。

具体的には、住民個々の防災に対する「自助」と家族・地域内などの「共助」の意識付けを助長するとともに、行政の責務としての「公助」の観点から、防災計画の見直しやハザードマップの作成に着手します。また、漁業集落防災機能強化事業などによって浸水区域の地盤かさ上げ、避難誘導灯の設置、津波避難路、漁業集落道の整備を行うほか、津波警報発令時における通行規制などの情報を表示・伝達する道路情報システムを整備するなど、緊急性と重要性を見極めながら安全な村づくりを進めます。



津波で大きな被害を受けた平井賀地区。緊急性と重要性を見極め安全な村づくりを進める（左から、震災前、震災直後、1年後）

### 主要施策 3 産業振興と就労対策

本村の産業振興にかかる喫緊の課題は、22年12月下旬から年末年始にかけての低気圧災害に加えて先の大震災で壊滅的な被害を受けた漁業の復興です。漁業復興のためには、漁船、漁具、養殖施設などの確保はもちろんのこと、漁港や魚市場、製氷施設などの早期整備が欠かせないことは言うまでもありません。



養殖ワカメ共同作業の様子

漁船や水産施設などについては、

引き続き緊急的対応として全船の確保に努めるとともに、養殖ワカメの共同作業と加工出荷体制の整備に取り組んでいく考えです。

23年度には、低気圧被害の対策として、定置網修繕費の村単独補助やワカメ共済掛金の大幅助成、水産産業廃棄物処理費の助成などを行ってきました。新年度には、養殖ワカメ生産の回復、サケふ化場の整備を行うとともに、漁港や魚市場の整備に向けた取り組みを進めるなど、漁業者の就労意欲の喚起につながる漁業環境整備に努めていく考えです。

なお、漁船が充足するまでの間は、国の重点分野雇用創出事業などを最大限活用しながら、総事業費1億4千万円規模の臨時的雇用機会を確保するなどの就労対策を講じます。

農業振興にあつては、いわて未来農業確立総合支援事業、担い手確保対策支援事業、しいたけ産地化促進事業などに取り組み、村

産堆肥を活用した土づくりと資源循環型農業の推進による振興野菜（ダイコン、ブロッコリー、ホウレンソウ）の推進やシイタケ栽培の促進を図り、産地化形成に努めます。

商工振興にあつては、村単独事業である中小企業振興資金による資金融資を実施するほか、県と連動して被災した商店、民宿、各種事業所の事業再建を支援する中小

企業被災資産復旧費補助を実施します。

観光振興については、昨年は震災により低迷した1年でしたが、本年4月から6月まで本県で実施される「いわてデスティネーションキャンペーン」を一つの起爆剤として、体験型観光やジオツーリズムを基調とした経済波及効果の高い本村独自の観光スタイルを形成していきたいと考えています。

### 主要施策 4 社会資本と産業振興基盤の整備

大震災は、これまで先人が築き上げてきた社会基盤を一瞬にして破壊してしまいました。社会資本整備と産業振興のための基盤整備は、村の持続的な発展のために欠くことができない大変重要なインフラです。

その中でも最も大きな期待がかかる事業は、沿岸域の宮城県仙台市と青森県八戸市を結ぶ、三陸縦貫自動車道（仙台市～宮古市）、三陸北縦貫道路（宮古市～久慈市）、八戸久慈自動車道（久慈市～八戸市）の3路線からなる復興

道路としての「三陸沿岸道路」の整備促進です。

部分的に供用開始しているこの道路は、先の大震災の際には避難や救援のための「命の道路」として大変重要な役割を果たしました。

本村を縦断する三陸北縦貫道路は、思案坂大橋を含む中野バイパス部分のみが完成していますが、国ではこの三陸沿岸道路をおおむね10年後の全線開通を目指して工事を進めることとしています。本路線は、本村の産業経済や地域医療、文化交流に大きな役割を果た



す路線として大きな期待を寄せているところであり、早期完成に向け全力を傾注していきます。

その他の道路整備関連では、島越地内の集落道4路線（村道島越線、立神線、島越浜岩泉線、川向線）および羅賀地内の集落道4路線（村道海鳴台線、上川原線、羅賀平井賀線、平井賀線）の改良舗装整備の他、主要地方道岩泉平井賀普代線の羅賀地内におけるかさ上げ、社会資本整備総合交付金事業による田野畑平井賀線および菅窪和野線、沼袋田代線の改良舗装工事を継続して実施します。さらに、地域から要望の強い沼袋三沢線の改良については、新規事業として国に要望していくところです。

三陸鉄道北リアス線の久慈―田野畑間は、本年4月1日に運行再開が決定されています。小本―田野畑間についても早期に全線開通するよう取り組みます。

震災で、本村の水産業の基盤を支えてきた机・羅賀・島越の各漁港も大きなダメージを受けました。漁港の整備については、村管理漁港である机漁港および平井賀漁港（羅賀地区、平井賀地区）の地

盤沈下した荷上げ場や防潮堤、臨港道路のかさ上げなどの災害復旧を行います。なお、県管理の島越漁港については、早期復旧について引き続き県に要望していきます。

24年度は震災復興に向けた初年度です。後年度を見据えながら、村民が豊かな生活を送るための社会資本と産業振興基盤整備の基礎固めに全力を挙げて取り組みます。

## 主要施策

### 5

## 教育の振興

大震災は、教育分野にも大きな影響を与えました。その影響を拭い去るためにも国の事業を積極的に取り入れ、本村教育の一層の充実を図りたいと考えています。

21年度から取り組んできた「小

中連携（一貫）教育」については、新年度から3年計画で小中両校を研究校に指定し、学力向上を主眼とした学習指導や生徒指導、産業体験など、9年間を見通した学校教育の在り方について研究的に取

り組みます。

また、文部科学省の復興対策事業である「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」を取り入れ、従来、小学校3年生までの希望者を対象とした「放課後子ども教室」を見直し、3年生までの全児童を対象に「学びの教室」を開催することや中学生の「学習サポート事業」に外部講師を導入して学力向上を図ること、7人のコーディネーターを配置しての学校支援事業を再開することなど、小中学校一体となって子どもたちの学習支援を行いたいと考えています。社会体育の分野では、念願であった「総合型地域スポーツクラブ」を立ち上げ、村民のニーズに応える多様なスポーツを生活に取り入れ、スポーツを通じてコミュニティ再生に寄与したいと考えています。

当面は復興対策事業が優先されますが、11月3日の「田野畑村教育の日」を中心に教育的な事業を実施し、村民の教育に対する関心が一層高まるよう取り組みます。



中学校卒業式で野球部の後輩から手厚い祝福を受ける上山阿登夢君（資料写真）



## 結び

以上、平成24年度の施政の方針および主要施策の概要について述べましたが、これらに要する予算総額は一般会計で125億2400万円となり、前年度当初予算比281.0パーセントの大幅な増となりました。これは、東日本大震災の復興交付金事業関連と災害廃棄物処理事業の純増が主な要因です。

特別会計を含めた全会計では146億428万円余りとなり、前年度当初予算比214.5パーセントの増となりました。これは震災復興関係事業費99億7万円余りが加わったことから、過去最大の当初予算規模となったものです。

震災からの早期の復旧復興を最大の目標としながらも、健全な財政運営と村民福祉の維持向上を目指した積極予算を編成しました。事業実施にあたっては、予算の節減を図りながらも最大の行政効果が得られるよう努めます。

三陸北縦貫道路にかかる尾肝要トンネル工事も順調に進んでいます。また、震災以来不通となっていた三陸鉄道北リアス線の陸中野田―田野畑間が4月1日に運行再開され、鉄道不通区間である田野畑―小本間は1日7往復のバ

ス運行がなされることとなっています。少しずつではありますが復旧復興に向かった確かな希望の槌音が聞こえてまいります。

震災直後の炊き出しなどで各自治会の絶大な応援や有志の方々からいただいた数々の支援など、村民の強い絆が発揮されました。また、全国はもとより海外からもさまざまな形で多くの支援をいただき、新たな絆が生まれています。あらためて感謝申し上げます。

新年度は被災された方々と全村民が大震災から立ち上がり、未来に向けた復興の事実上の初年度として例年にも増して村民、行政、議会が共に手を携え、『参加・協働・創造』による村づくり」にあたっていかなければならない大変重要な年度です。

未曾有の大震災被害に立ち向かい、小さな自治体の強みを生かして被災者と被災地に寄り添った復旧復興を進めるとともに、将来の田野畑村を担う若い世代や後世に誇れる村づくりの基礎・基盤を再構築する強い気概を持って村政運営にあたります。

村民の皆さんならびに議員各位の村政運営に対するなお一層の理解と支援をお願い申し上げます。平成24年度の村営運営にあたる施政方針の所信表明とします。

## 平成24年度 人事異動

平成24年度、村職員などの人事異動をお知らせします。村は、復興を最重要課題として取り組むため組織の一部改革。新たに復興対策課を設置しました。

### 村職員

- ◆**参事**  
参事兼総務課長―中嶋喜和男、参事兼地域整備課長―鍬形金由
- ◆**総務課**  
総務・財政班主任主査―佐々木修、同主査―大森泉
- ◆**政策推進課**  
政策推進班主任主査―渡辺謙克
- ◆**復興対策課**  
課長―佐藤俊一、復興対策班主任主査―久保豊、佐々木靖、同主任―佐藤智佳
- ◆**税務課**  
課長―大澤喜男、税務班主任―菊地正次
- ◆**生活環境課**

- ◆**地域整備課**  
復興道路対策室長―熊谷吉秀、復興道路対策室技師―角館尚
- ◆**産業振興課**  
課長兼水産復興室長―大澤俊一、産業振興班主査兼国土調査班主査―早野和彦、産業振興班主任―平坂聡
- ◆**保健福祉課**  
地域包括支援センター班主任主査兼保健福祉班主任主査―久保朋子
- ◆**診療所**  
管理班主査兼歯科診療所管理班主査―工藤隆彦
- ◆**会計課**  
会計班主任―佐藤和子
- ◆**議事事務局**  
事務局長兼選挙管理委員会事務局局長兼監査委員事務局主幹兼監査委員事務局主幹―熊谷和広
- ◆**農業委員会事務局**  
事務局長兼議事事務局主幹兼選挙管理委員会事務局主幹兼監査委員事務局主幹―熊谷和広
- ◆**教育委員会事務局**  
教育次長兼給食センター所長―工藤ヒロ、主任主査―早野円、畠山哲
- ◆**退職者**  
※職名は退職時  
会計課会計班主任主査―平坂礼子、

- ◆**国保・介護班主事**―川畑勝也
- ◆**復興道路対策室長**―熊谷吉秀、復興道路対策室技師―角館尚
- ◆**産業振興課**  
課長兼水産復興室長―大澤俊一、産業振興班主査兼国土調査班主査―早野和彦、産業振興班主任―平坂聡
- ◆**保健福祉課**  
地域包括支援センター班主任主査兼保健福祉班主任主査―久保朋子
- ◆**診療所**  
管理班主査兼歯科診療所管理班主査―工藤隆彦
- ◆**会計課**  
会計班主任―佐藤和子
- ◆**議事事務局**  
事務局長兼選挙管理委員会事務局局長兼監査委員事務局主幹兼監査委員事務局主幹―熊谷和広
- ◆**農業委員会事務局**  
事務局長兼議事事務局主幹兼選挙管理委員会事務局主幹兼監査委員事務局主幹―熊谷和広
- ◆**教育委員会事務局**  
教育次長兼給食センター所長―工藤ヒロ、主任主査―早野円、畠山哲
- ◆**退職者**  
※職名は退職時  
会計課会計班主任主査―平坂礼子、

- ◆**議事事務局**  
議事事務局主幹兼選挙管理委員会事務局局長兼監査委員事務局主幹兼監査委員事務局主幹―熊谷和広
- ◆**農業委員会事務局**  
事務局長兼議事事務局主幹兼選挙管理委員会事務局主幹兼監査委員事務局主幹―熊谷和広
- ◆**教育委員会事務局**  
教育次長兼給食センター所長―工藤ヒロ、主任主査―早野円、畠山哲
- ◆**退職者**  
※職名は退職時  
会計課会計班主任主査―平坂礼子、



田村 法也主事  
岩泉町在住、31歳  
「復興に向けて、明るく元気に頑張ります」



向井 俊一主事  
机在住、34歳  
「復興の力になれるよう全力で頑張ります」

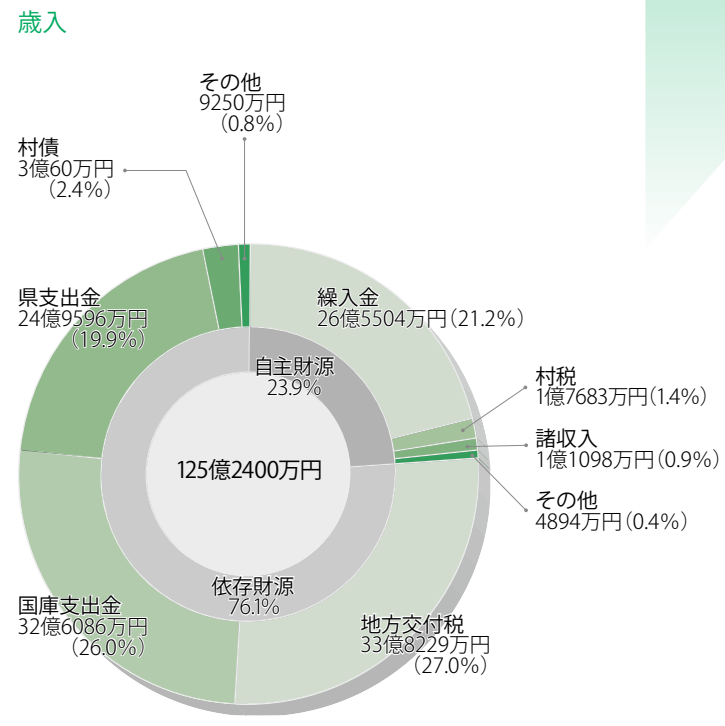
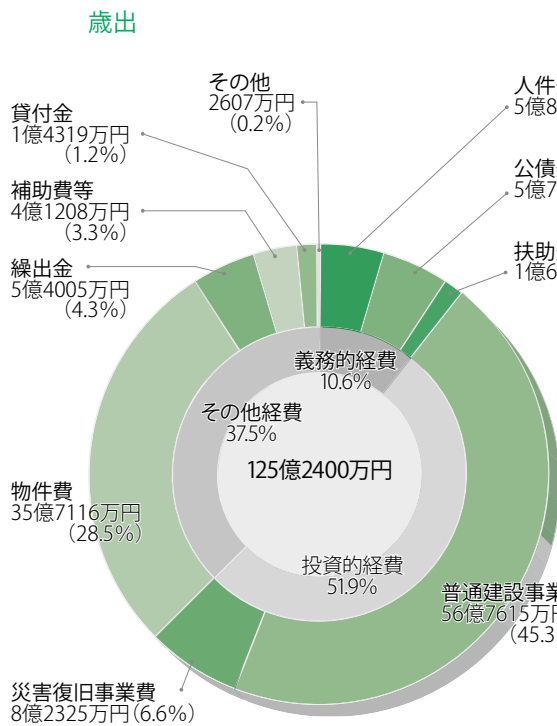
### 広域消防

- ◆**異動転出者**  
※カッコ内は異動先  
副分署長―伊澤愛一郎(田老分署)、消防主任―工藤司(岩泉消防署)、消防士長―内村拓道(宮古消防署)、消防士―日山大輝(岩泉消防署)

### 教職員

- ◆**異動転出者**  
※カッコ内は異動先  
【**田野畑小**】副校長―木村寛勇(住田町立世田米小)、教諭―澤柳健一(宮古教育事務所)、教諭―柳瀬直哉(住田町立世田米小)、教諭―小渡修子(盛岡市立桜城小)、教諭―芳平玲子(盛岡市立都南東小)、養護教諭―小澤明恵(岩泉町立大川小)、事務主任―昆野ゆかり(宮古水産高)、講師―松葉太士(退職)、すこやかサポート―根木地瑠美(退職)
- 【**田野畑中**】副校長―中村哲(花巻市立湯本中)、教諭―下総芳運(宮古市立新里中)、教諭―近藤成樹(宮古市立田老第一中)、教諭―黒田栄子(岩泉町立小川中)、講師―高橋宏彰(宮古市立田老第一中)
- 【**岩泉高田野畑校**】校長―夏井敬雄(大船渡高)、副校長―内館由美(前沢高)、教諭―佐藤誠也(一関第二高)、教諭―大内寿文(盛岡第三高)、教諭―川村純世(軽米高)、教諭―上野葉登子(宮古高)、講師―相澤典江(花巻北高)、講師―近藤史隆(遠野緑峰高)、養護助教諭―米田恵里(退職)、用務員―畠山喜彦(宮古高)

■平成24年度一般会計予算



※端数処理の関係で数値に若干の差があります



# 翼

## 羽ばたけ 25の



田野畑小学校への入学を心待ちにしている新1年生。  
そんなみんなに、将来の夢を書いてもらいました。

「おおきくなったら  
なにになりたい?」



佐藤 まつりちゃん  
(西和野)

バレリーナ



佐々木 優太郎くん  
(倉津)

うちゅうごうし



佐々木 美緒ちゃん  
(島越)

おひめさま



佐々木 咲幸ちゃん  
(浜岩泉)

ぱていしん



中村 凜月ちゃん  
(羅賀)

ぱていしん



武田 柚姫ちゃん  
(北山)

かんごし



砂森 美咲輝ちゃん  
(真木沢)

かごうのせんせい



菊地 梓菜ちゃん  
(沼袋)

じゅせんしけん



上机 瑠愛ちゃん  
(浜岩泉)

かんごし



小野 陽菜乃ちゃん  
(浜岩泉)

アソキエア



有谷 拓翔くん  
(机)

かきゅうせんしゅ



町平 希凜ちゃん  
(倉津)

おねえさん



早野 花音ちゃん  
(島越)

おはなやさん



富山 弥来ちゃん  
(甲地)

アソキエア



富山 歩ちゃん  
(羅賀)

おいしおさん



工藤 陸大くん  
(西和野)

かきゅうせんしゅ



工藤 友香ちゃん  
(真木沢)

おはなやさん



君成田 楓くん  
(甲地)

ざっかーせんせい



則竹 文惺くん  
(村外へ)

けいさつかん



竹田 勇星くん  
(村外へ)

おもちやあさん



山根 恵太くん  
(羅賀)

けいさつかん



坂本 崇くん  
(田野畑)

おまわいさん



熊谷 和香ちゃん  
(島越)

かんごし



熊谷 陽香ちゃん  
(猿山)

ぱていしん



熊谷 幸芽ちゃん  
(七瀬)

けいさつかん



# 3.11

あの日から1年

## ここから前に、 これからも共に

追悼式で遺族を代表し「追悼のことば」を読み上げた佐々木誉さん(18)＝島越。込み上げる涙を必死でこらえ、津波の犠牲になつてしまった祖父母への思い、そして自らの決意を話しました。

3月11日、午後2時46分、東日本大震災の発生から1年がたちました。

あの日は、学校(宮古高校)で課外授業を受けていました。突然鳴り響いた、緊急地震速報を伝える携帯電話。すぐに大地震が襲い、真っ先に机の下にもぐり、揺れが収まるのを待っていました。

「家族は大丈夫だろうか」。心配で心配でたまりませんでした。

数分後に発令された大津波警報。僕は宮古高校から見える閉伊川をじっと見つめていました。川は逆流し、船や車が流され、津波は想像を絶するほどの大きさでした。頭の中が真っ白になり、何も考えられず、どうすることもできませんでした。その日は、ほとんどの同級生が寒い教室で暗幕にくるまって泊まりました。

田野畑に帰ることができたのは、次の日の午後でした。両親が迎え



村内外から約600人が参列し、大震災犠牲者に哀悼の意を表した

に来てくれて、田野畑の同級生たちと帰ることができました。しかし、帰ってから知った、おじいちゃんとおばあちゃんが津波で流されたという事実。

兄が初めて野球を学んだスポーツの監督、妹にバレーを教えてくれた監督、僕らきょうだいに習字を教えてくれた友達のお母さん。小さいときから成長を見守り、いつも声を掛けてくれた川向地区のおじいさん、おばさん。たくさんの人たちが犠牲になったことを知りました。

島越を訪れたのは、1週間後くらいのことでした。悲惨な光景が広がっていました。不思議と涙は出ず、変わり果てた島越の姿に驚き、家や思い出の物を一つでも多く見つけようと思死に探しました。その後、おばあちゃんが見つかりましたが、おじいちゃんはいまだ行方不明のままです。早く見つかってほしい、それだけです。

海が好きで、海に生きたおじいちゃん。4人の子どもを育て、そばで支えてきてくれたおばあちゃん。正月になるとおじいちゃんと書き初めをしていました。でも、もう書き初めができなくなると思うと、本当に寂しいです。作品は全て流されましたが、大切な家族

との思い出は一生消えませんが、「きつとおじいちゃん、南洋の海で若い頃のように船に乗り、マグロを追いかけているに違いなし」そう思えるようになりました。

あの日から1年がたち、僕は春から大学生です。環境に関心があつた僕は、北海道教育大学に進学することに決めました。

今の僕はまだ、社会に出て役立つ力がありません。ですが、外からふるさとを見つめ、僕自身の人間力を高め、学習し、この大震災に遭いながら県外に進学することを許してくれた両親に感謝し、有意義な4年間にしたいと思っています。そして将来は、長くかかるであろう岩手の復興に役立つ人間として活躍できるよう努力します。

遺族代表  
佐々木 誉さん  
(18)＝島越＝



献花を行う参列者

小雪舞う3月11日、田野畑中学校体育館で「田野畑村東日本大震災一周年追悼式」を開催しました。大震災発生からちょうど1年が過ぎたこの日。村内外から約600人が参列し、犠牲者に哀悼の意を表しました。

国が行う式典の国歌斉唱、黙とう、野田内閣総理大臣の式辞、天皇陛下のおことばを映像中継した後、村追悼式を進行しました。

上机莞治村長は「復興への道のはり決して平たんではありません。しかし、大震災を後世に伝え、災害に強い安全・安心な村としてよみがえらせ、これまで以上に魅力ある村を目指します。皆さんと一丸となって未来に向けた復興に果敢に取り組みます」と式辞。

遺族代表の追悼のことばなどの後は、参列者が祭壇に献花を行い、手を合わせて津波犠牲者の安らかな眠りを祈りました。

この1年間で日本全国、世界中の皆さんからご支援を受け、励まされてきました。衣服や食料、野球のユニホーム、たくさんの方の温かい声に本当に感謝しています。僕は決して、あの日のことを忘れません。後世に語り伝えていかねければいけません。当たり前前のことか当たり前前に、いつものことがいつもできるようにできる生活がいかに幸せであるかということに気が付きました。岩手県田野畑村島越で生まれ育った誇りを胸に、これからの人生を精いっぱい歩んでいこうと思います。

最後に、震災で犠牲になられた全ての方々のご冥福をお祈りし、遺族代表の言葉とさせていただきます。





【全国、世界各地から寄せられたさまざまな支援】



深谷市からメッセージを添えた花が仮設住宅などに届いた(3月12日)



たのはた児童館にはアニメ「忍たま乱太郎」が訪問(昨年10月18日)



早稲田大学からもさまざまな支援を受けた(写真は思惟の森の会)



アズビィ避難所には全国、世界中からほぼ毎日、支援物資が届いた

村を襲った地震・津波

平成23年3月11日、午後2時46分、本村で震度4を観測した「東北地方太平洋沖地震」が発生。マグニチュード9.0という国内観測史上最大のエネルギーによって、村は数分間にわたり大きく揺さぶられました。その約40分後、沿岸部に襲いかかった大津波。

繰り返して押し寄せたであろう大津波は、多くの尊い命、幸せな生活、大切な財産を一瞬で奪い去りました。目の前に広がったのは目を背けたくなる、つらく悲しい惨状。村沿岸部は壊滅的な被害を受けてしまいました。

続いた不安と支え合い

地震発生直後から村内全域は停電となり、固定電話や携帯電話もつながらない状態。被害状況も分からない中で家族との連絡もなかなか取れず、私たちは大きな不安に包まれました。

そんな状況の中、村内に広がっ

た支え合いの心。内陸部の自治会などは、自主的におにぎりなどを炊き出し。岩泉高校田野畑校の生徒も、支援物資の仕分け作業などに連日汗を流してくれました。一番大変でつらい思いをしている被災者の皆さんは避難所内に自治組織を結成し、食事準備や避難所運営を協力し合いました。

大震災発生直後から毎日のように届けられた支援物資。水、食料、衣料、日用品など世界中から寄せられる善意は、避難所生活を余儀なくされた被災者の皆さんの命をつなぎとめました。

全国から村に集まった自衛隊員や警察官などの頼もしい応援隊も、不慣れた土地にも関わらず、村のために力を尽くしてくれました。そんな世界中からの温かい支援は、あの日から1年が過ぎた今でも変わることなく続いています。

見せた漁業者の団結力

大震災発生から2週間あまりが過ぎた29日、被災地のがれき撤去を始めました。約3カ月を要したその作業で大きな力を発揮したのは、津波で被災した皆さん。重機が入れない場所は手作業が不可欠。漁師生活などで培った強じんな体と精神力で、がれきを次々と取り除いていきました。

6月には天然ワカメの共同採取を実施。村内の漁船約550隻のうち500隻以上が津波で流出した中、被災を免れた34隻のサツパ船を使い165人が共同作業を行いました。

7月29日は、サツパ船アドベンチャーズが再開。「俺たちの海!!」と書かれた旗をなびかせ、新たな出港を迎えました。

その後、秋サケ漁や養殖ワカメの作業など、漁業者の皆さんは常に協力。震災から立ち上がるうの一つになり、一歩また一歩と前に踏み出しています。

■東日本大震災の被害概要(2月29日現在)

人的被害(村民)				
死亡者	行方不明者	重傷者	軽傷者	
24人	15人	5人	1人	
建物被害(住家のみ)				
全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	計
225棟	22棟	23棟	11棟	281棟
被害額(181億5409万円)				
主な内容	住家・非住家…49億4964万円			
	水産・漁港施設…87億6598万円			
	観光・商工施設…25億1180万円 など			

【羅賀・大宮神社から】

震災前



被災直後



震災から1年



住宅や防災センターを襲った津波は旧羅賀児童館付近まで押し寄せた。がれき撤去が終わり、被災した防災センターは取り壊した

【机浜番屋群】

震災前



被災直後



震災から1年



番屋群やトイレ、建設中だった製塩施設などが流出。再生プロジェクトには続々と支援が寄せられている

【島越・郵便局付近】

震災前



被災直後



震災から1年



住宅をのみ込み、そこにあった幸せな生活も奪い去った津波。今は電柱が立ち並び、ライフラインなどが復旧

【ホテル羅賀荘】

震災前



被災直後



震災から1年



ホテル3階にまで押し寄せた津波は客室や大浴場などを破壊。11月の再開を目指し、4月中には工事に着手する予定

被災地の移り変わり  
震災前・直後・1年後



# 1年間のご支援に 感謝申し上げます

東日本大震災による大津波から1年が経過いたしました。

死者・行方不明者合わせて39人という大勢の犠牲者のほか、住居や船舶、漁業関係施設、道路、自動車、三陸鉄道、上下水道、公共施設などが受けた未曾有の被害により、沿岸部、特に島越、羅賀両地区ではその美しい街並みが一瞬にして消滅してしまいました。

避難所は一時600人を超える人々で埋め尽くされましたが、県内外から続々と物資のご支援を賜りました。パン、水、米、野菜、衣類、毛布、靴など、ありとあらゆる物資をちょうだいいたしました。

また、被災時には警察署員、自衛隊員、消防署員、消防団員、建設関係会社などをはじめ多くの関係機関の方々に行方不明者の捜索やがれきの撤去に献身的にあたってくださいました。

大津波から1年を経過する日を迎え、ここにあらためまして、これまで数多く寄せられましたご支援、ご援助、ご協力に対しまして、衷心より深く深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

田野畑村はこれから「未来に向けた復興」を合言葉に、一步一步、確実に、かつ力強く、復旧・復興に向かって歩みを進めてまいります。そしていつの日か必ず、震災前にも増して多くの皆さまに訪れていただけるよう、より魅力的な村へと成長することをお約束いたします。

今後とも田野畑村への応援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

平成24年3月  
田野畑村長 上机莞治

## 忘れないでください 震災直後に広がった 「支え合いの心」

東日本大震災により、大きな被害を受けてしまった本村でなく、村全体が不安や恐怖に包まれました。それと同時に、全国や世界中の皆さんからの支援を受け、人の心の温かさを感じました。

忘れられない、忘れてはならないあの日から1年。被災地の今は、がれきが撤去され電柱が立ち並び、道路の復旧工事が進むなど復興に向かい確実に前に進んでいます。しかし、復興はまだまだ道半ば、これからも長い道のりが続きます。

被災地から撤去したがれきは、処理が終わったわけではありません。アズビイ避難所は閉鎖しましたが、不便な仮

設住宅での生活を余儀なくされている人たちがまだまだいます。そして、いまだ15人も人が行方不明のままです。

忘れていませんか？ 立ち上がった人、立ち上がろうとしている人、立ち上がるのにもう少し時間が必要な人。被害にあった人たちの心の中の悲しみやつらさが消えてなくなったわけではありません。これからが復興に向かって力強く歩んでいくときです。

震災直後に発揮できた「支え合いの心」。私たちはこれからもその心を大切にしていきたいでしょう。いつか全ての人が復興を実感できるその日に向かい、皆さんで支え合って進みましょう。ここから前に、これからも共に！



全ての人が復興を実感できるその日に向かい… (3月18日・復興市で見た笑顔)





全国で奨励賞に入賞した向井さんの作品

第23回読書感想画中央コンクール

田野畑小5年

向井亜美さん奨励賞



(社)全国学校図書館協議会や毎日新聞社などが主催する第23回読書感想画中央コンクールの小学校高学年の部で、田野畑小学校5年の向井亜美さんが奨励賞を受賞しました。

作品は、コンクール指定図書「アフガニスタンの少女マジヤミン」を読んだ感想を描いたものです。本はアフガニスタンの日常を描いたノンフィクション。学校の先生になる夢を持っている主人公マジヤミン。その夢をかなえて学校で楽しく授業する様子を想像し、きれいな色使いで表現しました。

向井さんは「全国での入賞はともうれしいです。本を読むことも好きだけど、それ以上に絵を描くことが大好き。これからもいろいろな絵を描いてみたいです」と喜びを話していました。

65歳以上の皆さん

介護保険料が変わります



レクリエーションを楽しむアス倶楽部入所者と地域の皆さん(資料写真)

介護保険制度は、老後の介護を社会全体で支える仕組み。介護サービスの利用実績などに基つき、3年ごとに保険料の見直しを行います。

今年はその見直しの年。今後3年間の介護サービス給付費などの増加に対応できるよう、平成24年度から26年度までの保険料を下表のとおり見直しました。

事業費の見込額や65歳以上の人数などで算出する「基準額」。今回の見直しで村基準額は5万5千円としました。皆さんに負担いただく介護保険料は、その基準額に所得区分などに応じた段階ごとの割合を乗じた額です。

保険料は、みんなで介護保険制度を支え合う大切な財源。介護が必要になったときに安心してサービスを利用できるように、必ず納めましょう。

◆問い合わせ先：生活環境課 ☎ 3412114 内線22)

大震災で被災した皆さんにお知らせ

保険料と利用負担額の軽減を9月30日まで延長しました。すでに申請済みの方、決定を受けた人の再手続きは不要です。食費と居住費の減免は2月29日で終了しています。

楽天イーグルス杯第9回東北中学校選抜大会  
田野畑中2年  
金子宗平君が県選抜に選出

3月17、18の両日、仙台市のシエルコムセンで開催された「楽天イーグルス杯第9回東北中学校選抜大会」。その岩手県選抜チームに、田野畑中学校2年の金子宗平君が選出されました。

本県選抜は、県内各地から選出された22人。田野畑中野球部では1番打者で中堅手の金子君。広い守備範囲と、チャンスに強いバットティングで、小学生時代からチームを県大会優勝や全国大会出場などに導いてきました。

恵まれなかった金子君ですが、合宿や試合を通し、大きな刺激を受けました。「出場した選手はみんな、いいものを持っている。期待に応えていた。自分も期待に応えられる選手になりたい」と次なる目標を見据えています。

◆試合結果  
1 回戦：山形県選抜(山形) 7-0 (5回コールド)  
準決勝：いわき松風クラブ(福島) 2-0  
決勝：由利本荘選抜(秋田) 1-4



所得段階	対象者	基準額に対する割合	保険料(年額)	改定前保険料(年額)
第1段階	生活保護受給者、世帯全員住民税非課税の老齢福祉年金受給者	0.50	27,500円	22,000円
第2段階	世帯全員住民税非課税で、前年の合計所得と課税年金収入額の合計が80万円以下の人	0.50	27,500円	22,000円
第3段階	世帯全員住民税非課税で、前年の合計所得と課税年金収入額の合計が80万円を超える人	0.75	41,300円	33,000円
第4段階	本人が住民税非課税で、世帯の中に住民税課税者がいる人	1.00	基準額 55,000円	44,000円
第5段階	本人が住民税課税で、前年の合計所得が190万円未満の人	1.25	68,800円	55,000円
第6段階	本人が住民税課税で、前年の合計所得が190万円以上の人	1.50	82,500円	66,000円

※第5段階と第6段階の所得段階の境界を200万円から190万円に引き下げました



# 輝かしい歴史に幕

# 岩泉高校田野畑校が閉校

岩泉高校田野畑校の閉校式は3月3日、同校体育館で開かれました。午後2時から行われた式には、卒業式を終えたばかりの生徒13人、保護者、教職員、同窓生や地域住民など約180人が出席。思い出詰まった母校との別れを惜しみました。

式典に先立ち、生徒13人がスライドを使って学校の沿革を紹介。田野畑校の輝かしい歴史を振り返り「63年間ありがとう」と締めくくると、会場は大きな拍手に包まれました。

夏井敬雄校長は「田野畑校創設期における『困難を乗り越えて学び続ける精神』が、その後の発展の礎となっています。軟式野球や郷土芸能、放送コンクールなど、小規模校にして全国レベルの活躍を成し遂げてきました。最後の卒業生13人が震災の恐怖を乗り越え、全力で活動してこられたのは地域の皆さんのおかげです」と式辞。

生徒会長の坂本奈々美さんは「田野畑校の歴史に偉大な足跡を残してくれた先輩方に少しでも近づこうと、部活動やボランティア活動に一生懸命取り組んだ3年間。本年度の部活動では、全員が県大会に出場することが

できました。地域に愛され、大切に見守られてきた学校の閉校は残念です。でも、田野畑校の歴史と受け継がれてきた精神は、私たちの心の中にずっと生き続けます」と生徒代表のあいさつをしました。

式典の最後は校歌斉唱。田野畑校への感謝を込めて歌う最後の校歌が体育館に響き渡り、岩泉高校田野畑校はその63年間の歴史に幕を下ろしました。

同日午後5時からは、会場を岩泉町のホテルに移して「思い出を語る会」を開催。約130人が出席し、母校の思い出話に花を咲かせました。

オープニングは、田野畑卒業生が多く在籍する菅窪鹿踊保存会による「菅窪鹿踊」。勇壮な舞に、リズムをとったり写真撮影したりする旧職員の姿も見られました。

懇親会では、閉校を惜しみながらも、久しぶりの再開を喜び酒を酌み交わす同窓生や旧職員。思い出のスピーチも聞こえないほどに、会話が弾んでいました。

田野畑校は昭和23年、岩泉農業高校田野畑分校として開校。以来63年間で1399人の卒業生を送り出しています。

田野畑校  
あの日、あの時…



中学校を借用し昭和23年開校



新校舎（現在の校舎）が完成（S40）



高総体開会式で菅窪鹿踊（H21）



岩泉高との合同文化祭（H23）

思い入れのある学校  
悔しさ残るのが本音



閉校事業実行委員会  
佐々木菊三郎 会長

閉校が決まったことはやむを得ませんが、怒りと悲しみの気持ちは消えません。閉校式や思い出を語る会に、想像していたよりも多くの同窓生、旧職員の皆さんが出席。それだけ思い入れのある学校なんだとあらためて感じました。学校が無くなる寂しさよりも悔しさが残っているのが本音。でも「田野畑校よ、63年間本当にありがとう」



① 田野畑校1399人目、最後の卒業生は佐々木史也君②学校の沿革を紹介したスライドのナレーションは生徒13人③それぞれの思いを胸に最後の校歌斉唱④懐かしい顔との再開に思い出話の花が咲く⑤同窓生や旧職員は思い出のスピーチ⑥サクラシンマチも駆け付けてくれた



## ●岩泉高等学校田野畑校の歩み

- 昭和23年
  - ・田野畑中学校校舎を借用し、県立岩泉農業高等学校田野畑分校（定時制課程）開校
- 昭和24年
  - ・県立岩泉高等学校田野畑分校と改称
- 昭和28年
  - ・中学校新築に伴い校舎を全面借用
- 昭和29年
  - ・島越分室を設置（30年3月廃止）
- 昭和30年
  - ・平井賀分室を設置（31年3月廃止）
- 昭和31年
  - ・沼袋臨時教室を設置（32年3月廃止）
- 昭和40年
  - ・村から土地を借用し、校舎を新築
- 昭和41年
  - ・新校舎に移転、落成記念式典
- 昭和43年
  - ・体育館、調理室を新築
- 昭和46年
  - ・全日制課程となる
- 昭和47年
  - ・グラウンドを造成
- 昭和49年
  - ・特別教室を新築
- 昭和51年
  - ・学級増（2学級編成）
- 昭和53年
  - ・学級増に伴う仮設校舎完成
- 昭和56年
  - ・学級減（1学級編成）
- 昭和62年
  - ・創立30周年記念式典
- 昭和62年
  - ・第20回県高校軟式野球新人大会優勝
- 平成2年
  - ・第26回県高校軟式野球新人大会優勝
- 平成3年
  - ・体育館ステージ完成
- 平成4年
  - ・県立岩泉高等学校田野畑校と改称
- 平成7年
  - ・武道場完成
- 平成7年
  - ・平成7、8年度伝統文化教育推進指定校となる
- 平成8年
  - ・全国高校総合文化祭郷土芸能部門で文部大臣奨励賞、放送部門ビデオレター部門で奨励賞（共に最高賞）を受賞
- 平成8年
  - ・全国高文祭の優秀校東京公演（国立劇場）で菅窪鹿踊・剣舞を演舞
- 平成9年
  - ・全国高文祭放送部門ビデオメッセーシ部門で特別賞受賞
  - ・わこうどホームページコンテストで優秀賞受賞
  - ・千代田杯テレビ制作ドラマ・ドキュメント部門で優秀賞受賞
  - ・スクールページコンテストで通商産業大臣賞受賞
- 平成10年
  - ・校舎、調理室の大規模改修工事、特別教室棟改修工事を完了
- 平成10年
  - ・全国高文祭放送部門ビデオメッセーシ部門で奨励賞受賞
  - ・千代田杯テレビ制作ドラマ・ドキュメント部門で優良賞受賞
- 平成15年
  - ・全国高文祭放送部門ビデオメッセーシ部門で最優秀賞受賞
- 平成20年
  - ・創立50周年記念式典
- 平成22年
  - ・千代田杯テレビ制作ドラマ・ドキュメント部門で文化連名賞受賞
- 平成22年
  - ・創立60周年記念式典
- 平成24年
  - ・全日制課程普通科募集停止
- 平成24年
  - ・閉校式典、思い出を語る会





# 笑顔で「ありがとう」 今、学びやを巣立つ

岩泉高校田野畑校最後の卒業生は13人。就職、進学とそれぞれが自分の目指した進路に向かい進んでいきます。大震災を乗り越えボランティア活動にも積極的だった13人にインタビュー。(①出身②卒業後の進路③卒業にあたり一言)



**佐々木 勇人**君  
①尾肝要②盛岡市・専門学校③介護を学び、2年後介護福祉士になって村に戻ってくる



**佐々木 翔真**君  
①北山②宮古市・専門学校③学校は閉校するけど、僕たちの心の中にずっと生き続ける



**奥地 康巨**君  
①板橋②県外・就職③東京で大工修行をしっかり積み、いつか村に戻って家を建築したい



**大木 洋斗**君  
①西和野②村内・就職③地元建設会社、そして野球チーム「下北ピストルズ」で頑張る



**熊谷 日和**さん  
①大芦②県外・短大③他校とはきっとひと味もふた味違う学校生活。楽しい3年間でした



**畠山 史也**君  
①尾肝要②村内・就職③高校3年間、さまざまな活動とおし、前向きな気持ちになれた



**中田 大喜**君  
①普代村②二戸市・専門学校③普代と田野畑は隣接する村。今後もよろしくお願ひします



**澤里 直樹**君  
①久慈市②宮城県・就職③仲間と一緒に何でも全力で取り組んだ3年間。ありがとう田高



**佐藤 祐樹**君  
①羅賀②盛岡市・専門学校③介護を学びながら、復興に向け自分ができることを模索する



**西倉 瑞貴**さん  
①岩泉町②県外・就職③3年間支えてくれた家族、友達、先生、地域の方々に感謝します



**下田 果怜**さん  
①島越②県外・就職③転校してきてたった1年だったけど、とても楽しい学校生活でした



**佐藤 光**さん  
①大芦②県外・就職③働きながら看護師を目指します。村のことを誇りに思い頑張ります



**坂本 奈々美**さん  
①田野畑②県外・専門学校③最後の生徒会長として卒業。パティシエ目指して頑張ります



響け大地に

われらの鼓動

岩手県立岩泉高等学校田野畑校

創立60周年記念事業推進委員会

久遠の里  
人煙遠く管の里  
久遠の麓今ぞ立つ  
七ツヶ森に太平洋  
雄々しく清く豊かなり  
我等田野畑高校生  
悠久の里田野畑の  
未来に注ぐまなざしや  
昨日の吾にあらざれど  
一日に生命注ぐなり  
我等田野畑高校生  
すすみ行く世に遅れじと  
いそしみ学ぶ我等いま  
桃源の里田野畑を  
明日に築かん高らかに  
我等田野畑高校生

作 伊藤 麟市

校歌  
詞 小田島 孤舟  
曲 下総 皖一  
霧立ちのぼる宇霊羅岳  
突兀として聳ゆれば  
その山腹の湧口ゆ  
奔り出づ岩泉  
峽をくぎる街々を  
洗ひて清き清水の川  
影さへ映す川岸に  
吾が学舎や窓高し  
高き理想のシンボルの  
むらさき匂ふ桐の花  
胸に校旗に輝かさん  
吾ら岩泉高校生





「電車ごっこ」が田野畑駅前到着し、笑顔で手を振る参加者

### 三鉄運行再開祝うビデオ撮影

三陸鉄道の田野畑―陸中野田間の運行再開の喜びを伝える映像撮影が3月4日、田野畑駅で開催されました。集まった約70人は、「電車ごっこ」風にロープでつながり行進。田野畑駅前待ち受ける上机村長やさんてつくんが手を振って出迎えました。参加した佐々木澄風ちゃん(田野畑小1)は「電車ごっこは楽しかったけど、早く本物の三鉄に乗りたい」と運行再開を待ち望んでいました。完成した映像は、三陸鉄道ホームページなどで閲覧することができます。

### 田野畑駅を桜色にラッピング

4月1日に陸中野田―田野畑間の運行を再開する三陸鉄道。その再開を祝い、田野畑駅を桜でいっぱいにするイベントが3月24日に開催されました。あいにく天候は大雪でしたが、久慈工業高校美術部の生徒などが田野畑駅の壁に桜を描きました。桜の他、「そばにいるから頼っていいよ」「つらいけど乗り越えていこうよ」など、全国から届いた応援メッセージも描いた参加者。田野畑駅の壁一面は鮮やかなピンク色に染められ、一足早い春を迎えたようでした。



春の訪れを待ちわびながら、田野畑駅を桜で彩る参加者たち

### ピアノ生演奏中学生聴き入る

オーストリアウィーン在住の樋尾真澄さん、美保さん夫妻によるピアノコンサートが3月1日、田野畑中学校で開催されました。樋尾さん夫妻は、海外のコンクールで数々の賞を受賞した演奏家。また、美保さんは20数年前、平井中学校の生徒として本村を修学旅行で訪れた経験があります。2人が演奏するモーツァルトやシューベルトなど約10曲に、目を閉じ体でリズムを取りながら聞き入る生徒も。ホールは音楽が響き渡り、和やかな空気に包まれていました。



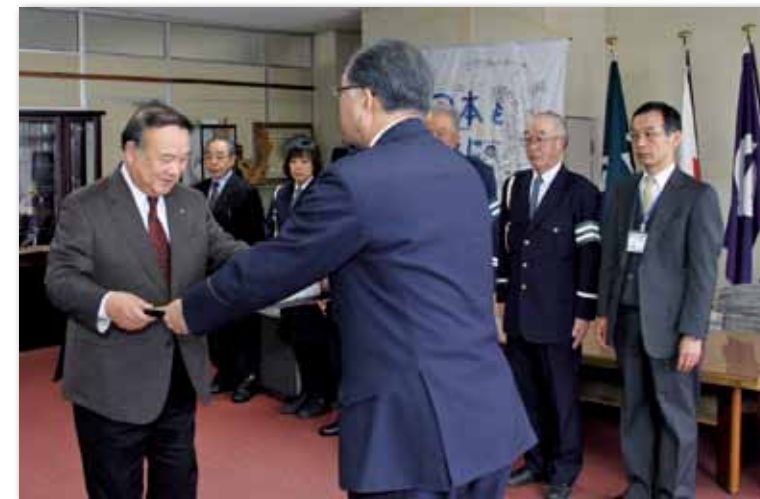
約10曲のピアノの調べに聞き入った

### 深谷の招待受け大学生と交流

田野畑小学校(早川幸男校長、児童174人)の5、6年生の希望者42人は3月18~20日まで、深谷市を訪れて埼玉工業大学の学生などと交流しました。これは、村の小学生に震災のことを忘れ、夢と元気を与えようと深谷市社会福祉協議会が企画してくれたもの。18日の夜は、学生と一緒にスライム作りをしたり、液体窒素を使った化学実験を楽しんだりしました。19日は東京ディズニーランドを満喫。1日中アトラクションを楽しみ、夢のような時間を過ごしました。



液体窒素で風船を凍らせる実験に興味津々(写真提供:深谷市社協)



瀬川岩泉警察署長から称賛状を受け取る上机村長

### 交通死亡事故ゼロ5年を達成

村は3月2日で交通死亡事故ゼロ5年を達成し、県警本部長から表彰されました。伝達式は5日、役場談話室で行われ、瀬川正範岩泉警察署長から上机莞治村長に称賛状が手渡されました。上机村長は「大震災から1年。災害や事故のない安心安全な村づくりの必要性を一層感じている。今後も啓発などを通し、交通事故のない村を目指したい」と話しました。村内で発生した最後の交通死亡事故は平成19年3月、明戸区内。死亡事故ゼロ期間は県内第1位です。

### 映画や工作に子どもたち笑顔

「東北アニメDEエール」は3月20日、アズビィホールで開催されました。これは、映画会社などが被災地の子どもに元気になってもらおうと企画したもの。人気アニメ「ちびまる子ちゃん」「ケロロ軍曹」を迫力の巨大スクリーンで楽しみました。映画の後は、アニメの絵を写して塗り絵をしたり、おもちゃ作りをしたりしました。工藤友香ちゃん(6)＝真木沢＝は「映画も面白かったし、絵も上手に描けました。とっても楽しかったです」と笑顔を見せていました。



映画の後はアニメの絵を写して塗り絵をしたり工作をしたりして楽しんだ



# お知らせ

人口と世帯		火災	
3月1日現在( )は前月比		(2月21日～3月21日)	
人口	3,863人(-3)	火災の【今月】	2件
男	1,900人(+3)	発生件数【今年】	3件
女	1,963人(-6)	無火災の連続記録	
世帯	1,437世帯(±0)	(3月21日現在)	18日

## 復興の狼煙ポスターを配布

2月11日にアズビィホール前で撮影した「復興の狼煙ポスター」が完成しました。撮影時に配布した「証」を持参して役場政策推進課で引き換えてください。ポスターに残部がありますので、「証」を持っていない人で希望する人も受け取ってください。

- ◆引換日時…4月27日(金)までの月～金曜日  
午前8時30分～午後5時30分
- ◆配布場所…役場政策推進課
- ◆その他…郵送や電話予約などには対応できません。数に限りがあるため1人1枚までとします
- ◆問い合わせ先…政策推進課(☎34-2111 内線62)



## 固定資産課税台帳を縦覧

固定資産税の課税の基になっている「固定資産税課税(補充)台帳」を縦覧します。土地売買や家屋を取り壊した場合、台帳の内容が訂正されていないと誤って課税してしまうことがあります。忘れずに確認をお願いします。

- ◆期間…4月2日(月)～5月1日(火) (土日祝日を除く)
- ◆時間…午前9時～午後5時
- ◆場所…役場税務課
- ◆問い合わせ先…税務課(☎34-2112 内線31)

## 24年度は「評価替え」の年

固定資産税は土地、家屋、償却資産の評価額から算出します。平成24年度は3年に1度行う評価替えの年。3年間の資産評価の変動を評価額に反映します。評価額は、4月下旬に届く納税通知書や課税明細書を確認してください。

- ◆評価替えの概要  
土地…県が公表する地価調査価格や不動産鑑定価格の7割程度を基準に決定  
家屋…再建築費(仮に今、建築した場合の建築費)を基準。建築物価動向と家屋の経過年数を反映させて決定。この評価額は、増改築などが無い限り26年度まで3年間据え置き
- ◆問い合わせ先…税務課(☎34-2112 内線31)

## 野菜生産の季節作業員募集

山木屋(佐々木大樹代表)では、野菜生産に携わる季節作業員を募集します。

- ◆人数…3人
- ◆作業内容…種まき、収穫、出荷、堆肥散布、畑整備など野菜生産全般
- ◆応募資格…普通自動車運転免許(AT限定不可)を有する人
- ◆給与…125,000～155,000円
- ◆雇用期間…7月1日(日)～10月31日(水)
- ◆勤務時間…午前5時～午後3時、午前9時～午後6時
- ◆応募期限…4月30日(月)
- ◆応募方法…電話で申し込んでください
- ◆応募・問い合わせ先…山木屋・佐々木大樹(☎34-2172)

## 加算支援金申請期限延長

東日本大震災で住宅に被害を受けた世帯の再建方法に応じて支給する「被災者生活再建支援金(加算支援金)」の申請期限が4年延長されました。申請方法など詳しいことは、復興対策室に問い合わせてください。

- ◆対象…大震災で住宅が全壊、大規模半壊し、基礎支援金を受給している世帯
- ◆延長後の申請期限…平成30年4月10日
- ◆申請方法…住宅再建の手続きをした世帯は、申請書(役場で配布)に次の書類を添付して提出  
①建築・補修…工事請負契約書  
②購入…売買契約書(建物)  
③賃借…建物賃貸借契約書(公営住宅を除く)
- ◆申請・問い合わせ先…復興対策課(☎34-2111 内線69)

## 広報の縮刷版を販売します

広報たのはた縮刷版の第3集、第4集を販売します。

- ◆内容  
第3集…301号～400号(平成5年5月～12年6月)  
第4集…401号～500号(平成12年7月～20年10月)
- ◆販売金額…各5,000円  
※第3集、4集を同時購入の場合、合わせて9,000円
- ◆販売場所…役場政策推進課
- ◆その他…第1集(1～202号)、第2集(203～300号)も販売中。第1集3,000円、第2集5,000円
- ◆問い合わせ先…政策推進課(☎34-2111 内線62)

## ポリオの予防接種を実施

ポリオは、ほとんどの場合が症状なく経過しますが、一部の人には永久まひが残る病気です。海外ではまだ流行している地域があり、日本に入ってくる可能性もあります。ワクチンを接種して予防しましょう。

- ◆日時…4月11日(水)  
午後4時～4時15分
- ◆場所…診療所
- ◆接種料…無料(村が負担)
- ◆対象者  
①1回目…生後3カ月から1歳6カ月まで  
②2回目…1回目接種後6週間が過ぎてから7歳6カ月まで
- ◆その他…予約不要。下痢をしている子は接種できません
- ◆問い合わせ先…保健福祉課(☎33-3102)

## 小中学生の医療費を助成中

村は、就学前乳幼児の医療費助成事業に加え、小中学生の医療費も助成しています。

- ◆助成期間…就学時から15歳に達した3月31日まで
- ◆対象医療機関…保健医療機関および保険薬局
- ◆給付方法…医療機関の窓口でいったん医療費の自己負担分を支払った後、役場に申請
- ◆申請方法…医療費(一部負担金)の領収書、健康保険証、金融機関の口座番号(保険者名義)、印鑑を持参。役場生活環境課で所定の用紙に必要事項を記入して申請
- ◆申請・問い合わせ先…生活環境課(☎34-2114 内線25)

## 広報に求人情報を載せませんか

広報たのはたに、村内企業などの求人情報を掲載しませんか。掲載を希望する場合は、政策推進課に連絡してください。

- ◆締切日…①1日号：前月15日  
②お知らせ版：当月8日
- ◆掲載料…無料
- ◆申し込み・問い合わせ先…政策推進課(☎34-2111 内線62)

## 森林取得したら届け出を

森林法が改正され、今年4月以降に森林の所有者になった人(個人、法人を問わず)は、面積に関わらず村長への届け出が義務付けられました。

- ◆対象者…売買や相続などで森林の土地を取得した人
- ◆届け出期間…土地取得から90日以内。必要書類は産業振興課に問い合わせてください
- ◆届け出・問い合わせ先…産業振興課(☎34-2111 内線43)

## 歯のテレホン相談を受け付け

4月18日は「ヨイ歯の日」。歯や口に関する悩みにお答えする無料電話相談「ヨイ歯デーテレホン相談」を実施します。

- ◆日時…4月18日(水)  
午前10時～午後7時
- ◆受付内容…歯、口に関する悩みについて
- ◆回答方法…相談を受け付けた後、午後7時以降に歯科医師から相談者に電話で回答
- ◆相談料…無料
- ◆相談電話番号…県保険医協会ヨイ歯デーテレホン相談係(☎019-651-7341)

## 岩手県に就職しませんか

- ◆日時…4月7日(土)  
午後1時～5時
- ◆場所…岩手産業文化センターアピオ(滝沢村滝沢字砂込389-20)
- ◆対象…平成25年3月卒業予定の大学院、大学、短大、高専、専門・専修学生、既卒者および一般求職者
- ◆内容…参加企業との個別面談、就職相談など
- ◆問い合わせ先…(財)ふるさといわて定住財団(☎019-653-8976)

## 村税納付に口座振替の利用を

村税の納付は、口座振替がお勧めです。口座振替なら村税を納めに行く手間が省け、納め忘れの心配もなく、安心確実です。

- ◆手続き方法…預貯金通帳と通帳届出印鑑を持ち、下記の金融機関の窓口で手続きをください。納税義務者と口座名義人が異なる場合でも口座振替が可能です
- ◆取り扱い金融機関…①北日本銀行本店、支店 ②岩手銀行岩泉支店 ③新岩手農業協同組合田野畑支所 ④岩手県信用漁業協同組合連合会田野畑村支店 ⑤ゆうちょ銀行または村内の各郵便局
- ◆取り扱い村税…①個人村県民税(普通徴収) ②固定資産税 ③軽自動車税 ④国民健康保険税
- ◆開始日…金融機関で手続きした日の翌月末の納期分から
- ◆問い合わせ先…税務課(☎34-2112 内線32)



## 広報クイズ

問題の答えをはがきを書いて、役場政策推進課（4月20日まで）にお送りください。正解者の中から抽選で5名様にプレゼントが当たります。

- Q1 平成24年度の村一般会計予算額は？  
 A) 146億 428万円  
 B) 125億2400万円
- Q2 4月9日、田野畑小に入学する新1年生は何人？  
 A) 25人  
 B) 23人
- Q3 3月3日、閉校式を行った岩泉高田野畑校。これまでの卒業生は何人？  
 A) 1399人  
 B) 13人

■前号(3月号)の正解  
 Q1→A、Q2→B、Q3→B  
 ■当選者(敬称略)  
 上山明美(田野畑)、牧原喜孝(大芦)、三浦啓史郎(島越)、矢羽々武美(盛岡市)、中村志会之助(埼玉県)

## 「田野畑むらづくり基金」への寄付状況

# 2093万7,449円

(3月21日現在)

371件(村内88件、県内118件、県外165件)

「田野畑むらづくり基金」の申し込み・問い合わせは、村ホームページをご覧ください。総務課(☎34-2111 内線15)までご連絡ください。

## 役立ちカレンダー

期間：4月1日(日)～5月1日(火)

月日	行事	場所	時間	問い合わせ先
4月1日(日)	三陸鉄道運行再開イベント	田野畑駅	8:30～15:00	政策推進課(内線61)
6日(金)	田野畑中入学式	中学校体育館	10:00～11:15	田野畑中(☎34-2301)
	春の交通安全キャンペーン	道の駅たのはた	16:00～17:00	総務課(内線15)
9日(月)	田野畑小入学式	小学校体育館	10:00～10:50	田野畑小(☎34-2050)
11日(水)	たのはた児童館入園式	たのはた児童館	10:00～10:30	たのはた児童館(☎34-2331)
	ポリオ予防接種	診療所	16:00～16:15	保健福祉課(☎33-3102)
5月1日(火)	固定資産税1期、軽自動車税納期限			税務課(内線31・32)

役場☎34-2111 / 教育委員会☎34-2226 / 医科診療所☎33-3101 / 歯科診療所☎33-3100 / 保健福祉課☎33-3102  
 直通電話を開設しました

## 真新しい制服に身を包み卒業

田野畑小学校(早川幸男校長、児童174人)の卒業式が3月16日、同校体育館で開催されました。真新しい中学校の制服に身を包んだ29人の卒業生たち一人一人に、早川校長が卒業証書を授与。早川校長は「頼りになる人を目指し、感謝の心を持って生きることを大切にしてください」と激励。卒業生たちは「田野畑小で受けた教えと温かい思い出を胸に、進んで学び、友を大切に、協力し、強くたくましく進んでいきます」と力強く呼び掛け、学びやを巣立ちました。



真つすぐに前を見つめ、小学校を巣立つ卒業生たち

## 中学校から33人が新たな道へ

田野畑中学校(佐々木幸彦校長、生徒122人)の卒業式が3月14日、同校体育館で行われ、33人の卒業生が学びやを巣立ちました。卒業生たちは本年度、下北陸上で5年連続の総合優勝を果たすなど、村に元気を与えてくれました。卒業生を代表した小松山賢君は「『結束』のローガンの下、ぶつかりあいながらも本気で取り組んだ体育祭や文化祭。田中生だったことは私たちの誇り。いつか愛する村のために貢献したい」と答辞し、母校に別れを告げました。



これまでの感謝を含め「旅立ちの日に…」を合唱する卒業生

## たのはた児童館で初の卒園式

たのはた児童館(中里民子館長、園児44人)の卒園式が3月17日に行われました。昨年5月に開館した同児童館。初の卒園児となった12人は、在園児や保護者に見守られながら一人一人、中里館長から保育証書を受け取りました。田野畑小の早川幸男校長は「元気にあいさつ、ありがとうと言える1年生になってください」とお祝い。卒園児は1年間の思い出や、「算数の勉強を頑張りたい」「縄跳びを頑張りたい」と抱負を呼び掛けて、児童館を巣立ちました。



たのはた児童館第1号卒園児の佐々木優太郎君

## おめでた おくやみ

[平成24年2月届け出分]  
 (一部敬称略)

●生まれた赤ちゃん  
 坂本 新(あらた)くん  
 大・郁子 田野畑

■ご冥福をお祈りいたします  
 佐々木 桂子(56) 切牛  
 佐々木 シヲ(88) 切牛  
 藤島 スワ(87) 甲地  
 畠山 クニエ(90) 菅窪

※この欄に掲載してほしくない人は、届け出のとき、戸籍係の窓口に出してください

## はまなす号巡回カレンダー

期間：4月25日(水)～26日(木)

◆はまぎくコース(机・北山方面)

月日	場所	時間
4月25日(水)	グループホームつくえ付近	9:40～10:00
	北山地区総合センター	10:10～10:25

◆たんぼぼコース(真木沢・切牛方面)

月日	場所	時間
4月25日(水)	佐藤進氏宅付近	11:05～11:20
	望洋館	11:30～11:45

◆おきなぐさコース(沼袋・甲地方面)

月日	場所	時間
4月26日(木)	産直プラザ尾肝要	9:45～10:00
	山栄会アリアス倶楽部付近	10:10～10:40
	甲地公民館	10:50～11:05

◆問い合わせ先…教育委員会(☎34-2226)

## はまなす 掲示板

田野畑中卒業式後の一コマ。女子バレーボール部は卒業生を囲んで最後の記念撮影。笑顔でピース!







阿部 <sup>はつね</sup>初音ちゃん (1歳7カ月)  
父・貴之さん、母・諒子さん=島越=

お母さんからのひとこと

お散歩やアンパンマンが大好き。いつも歌ったりダンスしたりしています。負けず嫌いでとってもおしゃべりな子。健康で思いやりのある子に育ってね。

わが家の  
アイドル



佐々木 <sup>ひな</sup>陽菜ちゃん (1歳7カ月)  
父・祐輔さん、母・みゆきさん=甲地=

お母さんからのひとこと

いつも2人のお兄ちゃんと一緒に遊んでいます。お兄ちゃんが泣くと「よしよし」と頭をなでる優しい子。明るくて思いやりのある子に育ってね。



編集ごぼれ話

東日本大震災の発生から1年が過ぎました。1年前の3月11日、ほんの数分前までは住宅や商店が立ち並んでいた街並み。沿岸部を襲った大津波は、街並みを一瞬で「がれき」に変えてしまいました。その変わり果てた姿を見ることも「がれき」と呼ばなければならぬことも、とてもつらいことでした。それから寄せられ続ける各地からの支援。本紙で紹介しきれないほど多くの支援をいただきました。本当にありがとうございます。▼私が広報担当になって丸4年。実は3月の取材が大嫌いです。3月は別れの季節。卒園式、卒業式、閉校式…。4年間で数々の別れの場面取材しましたが、ほぼ全ての会場で涙、涙。我慢しても駄目なものは駄目で、やっぱり今年も涙…。4月は新たな出会いの季節。3月の涙モードから切り替え、たくさんの出会いを楽しみに本年度も取材に走り回りたいと思います。引き続き、涙もろい広報たのぼたをよろしく願います。  
(政策推進課 佐々木和也)